



Vol.139

2014 December

記事

Top News

- 「大学教育の質保証研修」を開催 ……1
- NIAD-UEシンポジウム「国際共同教育プログラムの質保証」を開催 ……2

評価事業

機関別認証評価等について

- 訪問調査の実施 ……4

法科大学院認証評価について

- 訪問調査の実施 ……4

質保証連携

諸外国の質保証制度・動向情報の収集・整理・提供

- 新規刊行物のご案内 -「インフォメーション・パッケージ」関連資料 ……5

学位授与事業

短期大学・高等専門学校卒業者等を対象とする単位積み上げ型の学位授与関係

- 2,349人から学士の学位授与の申請 -平成26年度10月期申請分- ……6

機構認定の教育施設(各省庁大学校)の課程修了者への学位授与関係

- 21人から博士の学位授与の申請 -大学院博士課程相当の課程修了者- ……8

機構の窓

- 会議の開催状況 ……9

主要行事日程

- Schedule (2014年12月~2015年2月) ……10

TOP NEWS

○「大学教育の質保証研修」を開催

当機構は、国立大学法人筑波大学大学研究センターと共同で、一般社団法人国立大学協会の後援のもと、11月26日（水）に「大学教育の質保証研修」を、筑波大学東京キャンパスにて開催しました。

現在当機構では、大学等と連携して大学の質保証にかかる諸活動を支援することを目的として、質保証連携事業を推進しており、その一環として大学教育の内部質保証に関わる人材の能力向上に資するための研修プログラムを開発しています。このたび、研修プログラムが対象としている大学評価担当者の理解を深めるとともに、参加者から意見をいただくことでプログラムの改善に努め、さらなる開発を進めることを目的に、開発中の研修プログラムに基づく研修を試行的に実施しました。

当日は、国立大学関係者に加え、公私立大学関係者の方など、約130名以上もの参加がありました。

講義後に行われた全体ディスカッションでは、各講師に加え、吉武博通筑波大学大学研究センター長を交えて、前半の講義等の内容を踏まえ、大学が質保証力を高めるために何が必要であるか、そのために大学が抱えている課題とは何かなどについて活発な議論が交わされました。



全体ディスカッション

当日のプログラムは次のとおりです。

プログラム

開会挨拶 岡本 和夫（大学評価・学位授与機構 理事）
後援挨拶 木谷 雅人（国立大学協会 常務理事）
1 限目「研修シリーズの目的と概要、内部質保証とは」
2 限目「内部質保証の背景（日本の高等教育政策小史）」
3 限目「内部質保証システム」
4 限目「内部質保証力を上げるための技術」
全体ディスカッション ファシリテーター：吉武 博通（筑波大学 大学研究センター センター長）
閉会挨拶 武市 正人（大学評価・学位授与機構 研究開発部 部長）



後援挨拶
（木谷雅人国立大学協会常務理事）



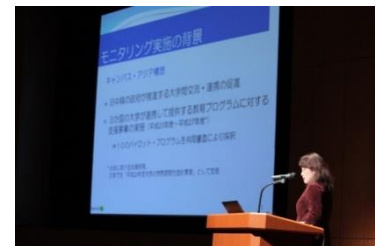
4限目の講義の様子（田中研究開発部教授）

ONIAD-UE シンポジウム「国際共同教育プログラムの質保証」を開催

大学評価・学位授与機構は、11月27日（木）にNIAD-UE シンポジウム「国際共同教育プログラムの質保証：日中韓の連携による教育の質モニタリングを通して見えてきたことは」を一橋講堂にて開催しました。

本シンポジウムは、日中韓の質保証機関が協力して実施している日中韓のトライアングル交流事業「キャンパス・アジア」パイロットプログラムにおける質保証の取組み（[「キャンパス・アジア」モニタリング](#)）について、平成25年度に機構が実施した日本側の1次モニタリングにより明らかになった優れた取組みを国内の高等教育関係者と共有する目的で開催しました。シンポジウムでは、各プログラムからの具体の事例発表を通じて、国際的な共同教育プログラムの企画・運営にあたって、教育の質の保証の観点から重要な点や気をつけることについて、議論を深めました。

第1部「イントロダクション」では、モニタリング委員長の佐藤 東洋士 学校法人桜美林学園理事長からの開会挨拶につづいて、機構の秦国際課長より、日中韓3か国によるモニタリング実施の背景や概要、日本での1次モニタリングの手法・基準・結果概要、中国・韓国での1次モニタリングの基準や結果の概要について紹介がありました。各プログラムによるポスター発表では、プログラムの具体の交流事例や特徴的な取組みについて、ポスター展示やビデオ、パンフレット等を使って説明がなされ、参加者との間で活発な質疑応答が行われました。



発表を行う秦国際課長

第2部「各論」では、各プログラムによる取組み事例の発表が行われ、プログラムの特徴を踏まえて工夫してきた点や、質の高い国際連携を求めて大学がいかに課題に取り組み克服してきたか経験を共有しました。第2部の最後には、4名のプログラム参加学生・修了生による学生部会の紹介や学生経験からの知見の共有にかかるセッションが行われました。



学生部会の様子

○第2部：各論 プログラムからの主な発表テーマ

セッション1：基準横断的テーマ

「アジア・ビジネス・リーダー・プログラムの設計、概要」〈一橋大学〉

「BESETOダブル・ディグリー・マスタープログラムの概要」〈東京大学〉

セッション2：中韓との協働による教育

「研究活動の認定」〈名古屋大学・東北大学（共同採択プログラム）〉

「ミッド・キャリア学生のニーズに対応したプログラム内容・方法」〈政策研究大学院大学〉

「国際共同ダブル・ディグリー、成績評価体制」〈九州大学〉

「学生の研究成果報告：国際会議における学生セッション」〈神戸大学〉

「3か国協働による学習成果測定：「到達度アンケート」」〈立命館大学〉

セッション3：日中韓の学生交流に対応した環境づくり

「実施体制ガイドライン」〈東京工業大学〉

「特徴的取組みの紹介：語学カフェ、オーダーメイド保険整備、現地語・文化学習」〈岡山大学〉

「質保証のための参加大学間協議会、学生支援、学生への事前のプログラム情報提供」〈名古屋大学（法）〉

セッション4：モニタリング学生部会

第3部「パネル」では、第1部、2部までで共有した各プログラムの取組み事例を念頭に、当機構岡本理事の進行のもと、モニタリング委員、各プログラム代表者、学生代表者、文部科学省の政策担当者との間で、国際的な共同教育プログラムの教育の質の保証において鍵となる点や、今後の「キャンパス・アジア」のあり方などについて、活発な質疑応答やディスカッションが行われました。



パネルディスカッションの様子

シンポジウム当日は、国内の大学等の教員、国際部門・評価部門の職員、国際連携プログラムの担当者等、総勢 194 名の参加がありました。

当日のプログラム・「優良事例集」の冊子を含む当日配布資料は下記ウェブページよりご覧になれます。

http://www.niad.ac.jp/n_kenkyukai/1254751_1207.html

なお、当機構が開設している「キャンパス・アジア」モニタリングウェブサイト（日本語・英語）では、モニタリングの趣旨・概要、日本における1次モニタリング（平成 25 年度実施）の基準・手法・結果（報告書）、学生部会の活動、1次モニタリング成果発信の取組み等の内容を掲載しています。

「キャンパス・アジア」モニタリングウェブサイト：
http://www.niad.ac.jp/n_kokusai/campusasia/

◆日本における1次モニタリング「優良事例集」（日本語版）

-海外の大学等との連携・共同教育プログラムの企画・実施の際に、ご活用ください-



当機構は、本シンポジウム開催にあわせ、日本側1次モニタリングの成果発信の取組みとして、『質保証からみた「キャンパス・アジア」：優良事例集 -日本における1次モニタリングから得られた大学の優れた取組み-』（大学評価・学位授与機構「キャンパス・アジア」モニタリング委員会、2014年11月発行）を刊行しました。

「優良事例集」には、モニタリングの7つの基準ごとに、1次モニタリングでパイロットプログラムから抽出した事例について、「キャンパス・アジア」における重要性を概説、具体の事例を紹介しています。さらに、いくつかの事例については、具体の資料のサンプル（イメージ）や写真を掲載しています。

同資料の電子版は、当機構「キャンパス・アジア」モニタリングウェブサイトの「優良事例集・シンポジウム」のページに掲載しています。

http://www.niad.ac.jp/n_kokusai/campusasia/best_practices.html

評価事業

機関別認証評価等について

○訪問調査の実施

平成 26 年 9 月末から、大学及び高等専門学校の機関別認証評価等対象校に対し、書面調査で確認できなかった事項等を中心に、対象校関係者との面談、教育現場の視察及び学習環境の状況調査等により対象校の状況を調査すること等を目的とした訪問調査を実施しました。今後は書面調査の結果に訪問調査で得られた知見を加えて総合的に判断し、評価結果の取りまとめを行います。

法科大学院認証評価について

○訪問調査の実施

平成 26 年 10 月末から、法科大学院認証評価の対象校に対し、書面調査で確認できなかった事項等を中心に、法科大学院関係者との面談、教育現場の視察及び学習環境の状況調査等により対象法科大学院の状況を調査すること等を目的とした訪問調査を実施しました。今後は書面調査の結果に訪問調査で得られた知見を加えて総合的に判断し、評価結果の取りまとめを行います。

質保証連携

諸外国の質保証制度・動向情報の収集、整理及び提供

○新規刊行物のご案内 – 「インフォメーション・パッケージ」関連資料

当機構では、国内外の高等教育質保証の基礎情報や動向をはじめ、国際的な共同教育プログラムの質保証を図るうえで有益な海外の情報や事例を収集し、刊行物や概要資料にまとめて関係者に広く発信しています。

今回は、高等教育質保証の基礎情報をまとめた「インフォメーション・パッケージ」の最新刊である台湾高等教育の質保証 プリーフィング資料と、諸外国の高等教育分野における質保証システムの概要「オランダ」の追補資料を刊行いたしましたので、ご案内します。

国際連携ウェブサイト：http://www.niad.ac.jp/n_kokusai/

「インフォメーション・パッケージ」新規収録資料

台湾高等教育の質保証 プリーフィング資料



台湾の高等教育や質保証制度の概況、質保証機関が行う第三者評価、国際化に向けた最近の動向をまとめた。また台湾高等教育評鑑中心基金会（HEEACT）による第2期プログラム評価についての補足資料も掲載した。HEEACTの協力・助言を得つつ、最近のデータや動向を踏まえて、当機構の評価事業部国際課が作成。（平成26年11月作成／18ページ）

「インフォメーション・パッケージ」追補資料

諸外国の高等教育分野における質保証システムの概要「オランダ」：追補資料



2011年より開始したオランダの第2サイクル評価制度についての基本情報をまとめた。機関別オーディット、プログラム評価、国際化評価の概要とともに、各評価制度の基準を掲載した。最近のデータや動向をもとに、当機構の評価事業部国際課が作成。（平成26年11月作成／7ページ）

学位授与事業

短期大学・高等専門学校卒業生等を対象とする単位積み上げ型の学位授与関係

〇2,349人から学士の学位授与の申請 ー平成26年度10月期申請分ー

短期大学、高等専門学校卒業生及び専門学校修了者等2,349人から、22専攻分野45専攻の区分にわたり学士の学位授与の申請がありました。

この申請に係る学位授与の審査は、平成26年11月7日（金）開催の学位審査会において機構長から学位授与の可否について審査の付託があり、学位審査会では、修得単位の審査及び学修成果・試験の審査を担当する専門委員会の指定が行われました。

各専門委員会における修得単位の審査及び学修成果・試験の審査を経て、平成27年2月13日（金）開催の学位審査会で最終審査が行われ、合格者には学士の学位を授与する予定です。

なお、申請に当たっては、インターネットを利用して申請ができる「電子申請システム」が平成20年度から導入され、郵送申請とあわせて利用されています。

<平成26年度10月期学士の学位授与申請者数>

（基礎資格別）

基礎資格	申請者数 (人)
短期大学卒業生	552
高等専門学校卒業生	1,498
専門学校修了者	260
大学中退者	26
飛び級	5
大学卒業生	8
合計	2,349

（専攻の区分別）

専攻分野の名称	専攻の区分	申請者数 (人)
文学	国語国文学	14
	英語・英米文学	3
	歴史学	2
	哲学	1
教育学	教育学	184
神学	神学	3
社会学	社会学	1
	社会福祉学	1
教養	比較文化	1
	地域研究	4
	科学技術研究	2
学芸	科学技術研究	1
社会科学	社会科学	3

(上記のうち、修了見込みでの申請者)

区 分	申請者数 (人)
短期大学専攻科修了見込者	568
高等専門学校専攻科修了見込者	1,493
合 計	2,061

専攻分野の名称	専攻の区分	申請者数 (人)
法 学	法 学	5
経 済 学	経 済 学	1
商 学	商 学	1
経 営 学	経 営 学	15
理 学	数 学 ・ 情 報 系	3
	物 理 学 ・ 地 学 系	1
	生 物 学 系	1
	総 合 理 学	3
看 護 学	看 護 学	346
保 健 衛 生 学	検 査 技 術 科 学	17
	放 射 線 技 術 科 学	16
	理 学 療 法 学	21
	作 業 療 法 学	5
	言 語 聴 覚 障 害 学	3
鍼 灸 学	鍼 灸 学	1
口 腔 保 健 学	口 腔 保 健 衛 生 学	42
	口 腔 保 健 技 工 学	6
柔 道 整 復 学	柔 道 整 復 学	1
栄 養 学	栄 養 学	68
工 学	機 械 工 学	375
	電 気 電 子 工 学	479
	情 報 工 学	201
	応 用 化 学	169
	生 物 工 学	35
	材 料 工 学	29
	土 木 工 学	139
	建 築 学	56
社 会 シ ス テ ム 工 学	11	

専攻分野の名称	専攻の区分	申請者数 (人)
芸術工学	芸術工学	1
家政学	家政学	6
芸術学	音楽	34
	美術	38
合 計		2,349

機構認定の教育施設（各省庁大学校）の課程修了者への学位授与関係

■ 機構認定の教育施設（各省庁大学校）の課程修了者への学位授与

○21人から博士の学位授与の申請—大学院博士課程相当の課程修了者—

大学院の博士課程に相当する教育を行う課程として認定されている防衛医科大学校医学教育部医学研究科の平成26年9月修了者21人から、博士の学位授与の申請がありました。

この申請に係る学位授与の審査は、平成26年11月7日（金）開催の学位審査会において、機構長から学位授与の可否についての審査の付託があり、これを受けて学位審査会では、論文の審査及び試験を担当する専門委員会として、医学・薬学専門委員会が指定されました。

専門委員会における論文の審査及び口頭試問を経て、平成27年2月13日（金）開催の学位審査会で最終審査が行われ、合格者には平成27年3月末までに、博士の学位を授与する予定です。

<博士の学位授与申請者数>

認定課程名	専攻分野	申請者数 (人)
防衛医科大学校 医学教育部医学研究科	医学	21
合 計		21

機構の窓

○会議の開催状況

- 学位審査会

第3回 平成26年11月7日（金） 15:00～17:00

議事

- （1）短期大学及び高等専門学校卒業生等に係る学位取得者数について
- （2）短期大学及び高等専門学校卒業生等に係る学士の学位授与の審査について
- （3）認定課程修了者に係る学士の学位授与の審査について
- （4）認定課程修了者に係る博士の学位授与の審査について
- （5）認定課程修了見込者に係る修士の学位授与の審査について
- （6）短期大学及び高等専門学校の専攻科に係る認定の審査について
- （7）高等専門学校の専攻科に係る認定の再審査について
- （8）短期大学及び高等専門学校の認定専攻科の特例適用認定に係る審査について
- （9）規則の一部改正について
- （10）その他

主要行事日程

○ Schedule

12月

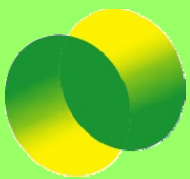
日	行事名	担当課	関連ページ
7日	大学評価・学位授与機構試験（面接） （東京地区）	学位審査課	関連ページ
14日	大学評価・学位授与機構試験（小論文） （札幌地区、東京地区、大阪地区、 岡山地区、福岡地区）	学位審査課	関連ページ

2015年1月

日	行事名	担当課	関連ページ
19日	大学機関別認証評価委員会（第2回）	評価支援課	関連ページ
20日	高等専門学校機関別認証評価委員会（第2回）	評価支援課	関連ページ
28日	法科大学院認証評価委員会（第3回）	評価支援課	関連ページ

2月

日	行事名	担当課	関連ページ
13日	学位審査会（平成26年度第4回）	学位審査課	関連ページ



NIAD-UE

独立行政法人大学評価・学位授与機構